

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画 (Syllabus)

| 分野 | 授業科目名 | 単位数 | 時間数 | 開講時期 | | | |
|--------------|--|-----|-----|-----------|--|--|--|
| 専門 | 臨床看護総論 | 1 | 15 | 3年次 ・ 1学期 | | | |
| 担当講師 | 専任教員 (病院での看護経験あり) | | | | | | |
| 授業概要 | 臨床判断は、患者のニーズ、関心事、健康問題について解釈や統合を行い、アクションを起こすか起こさないかを判断し、標準的なアプローチを使うか、変更するかを判断、患者の反応によって適切とみなされる新しいことを即興で行うための判断である。臨床判断していくための基本的な考え方を学び、またそれを活用することで、患者の状況や適切だと考えられる支援を考え、看護の実践につなげる。 | | | | | | |
| 授業目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床判断モデルの4つのプロセスが理解できる 2. 事例を臨床判断モデルの4つのプロセスを用いて展開することができる 3. 自身の看護実践を臨床判断モデルで振り返り、患者の状況やその時に適切だと考えられた支援について論理的に表現することができる | | | | | | |
| 回数 | 授業内容 | 担当者 | | | | | |
| 第1回 | 1. 臨床判断とは 臨床判断モデルにつながるコンテキスト・背景・関係性 | | | | | | |
| 第2回 ～3回 | 2. 臨床判断モデルの4つのプロセス (共通事例) <ol style="list-style-type: none"> 1) 気づく 2) 解釈する 3) 反応する 4) 省察する | | | | | | |
| 第4回 ～6回 | 3. 自己の看護実践を臨床判断モデルで振り返る <ol style="list-style-type: none"> 1) 事例を用いて、臨床判断モデルの4つのプロセスで振り返る 2) (個人ワーク) 3) 個人ワークをもとに、グループで意見交換 4) グループ発表、全体共有 | | | | | | |
| 第7回 | 4. まとめ | | | | | | |
| 第8回 | 5. 認定試験 | | | | | | |
| 自己学習 関連科目 | 相手に対する関心から気づきは生まれます。自己の傾向を認識し、講義に臨みましょう。 関連科目：領域別実習 | | | | | | |
| テキスト | 系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 医学書院 | | | | | | |
| 参考図書 | 新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護学技術 I メヂカルフレンド社 | | | | | | |
| 評価方法 | 筆記試験、レポート課題等 | | | | | | |

| 分野 | 授業科目名 | 単位数 | 時間数 | 開講時期 |
|-----------------|--|-----|-----|-----------|
| 専門 | 臨床看護の実践 I | 1 | 30 | 3 年次・1 学期 |
| 担当講師 | 専任教員 (病院での看護経験あり) | | | |
| 授業概要 | <p>患者の状況を把握し、患者の反応によって適切とみなされる支援を即興で行うには多様かつ複雑な場、様相を捉え、柔軟に対応する能力が必要となる。</p> <p>本科目では、事例を通して様々な症状を有する患者への看護の実践を行う。これまでに学習してきた知識と技術から、患者の状況を的確にとらえるためにアプローチし、患者の反応から適切とみなされる支援を実践し、看護の実践能力向上を図る。</p> <p>また、自己の実践場面を振り返り、自己の思考・判断の根拠に気づき、自己の視野の拡大やものの捉え方など自身を内省する。さらに、専門職として言語化する能力も求められるため、グループで意見交換しながら 4 つのプロセスを辿り、臨床判断の基礎的能力を養う。</p> | | | |
| 授業目標 | <p>患者の状況を把握し、患者の反応によって適切とみなされる支援を即興で行う</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. そこにある対象を全体的に把握しようとするができる。 2. 対象をよりの確に把握するための情報を収集し、推論することができる。 3. 事例において、得た臨床像が対象に及ぼす影響を考え、看護介入の方法を根拠を持って選択することができる (反応する) 4. 看護介入の後に対象の反応を観察し、その効果や影響を考えることができる。 5. 看護介入の途中で対象の反応からその効果や影響を捉え、必要に応じて介入方法をその場で修正することができる。 6. 自身の看護実践を、臨床判断モデルに基づいて論理的に説明することができる。 | | | |
| 回数 | 授業内容 | 担当者 | | |
| 第 1 回 | 1. 授業ガイダンス事例紹介・事例の解釈 2. 第 1 回：看護実践 (演習) 3. 第 1 回：演習リフレクション・グループワーク、発表、情報収集 4. 第 1 回：看護実践実践 (再演習) 5. 第 1 回：再演習リフレクション・グループワーク、発表 | | | |
| 第 2 回 ～5 回 | 6. 第 2 回：看護実践 (演習) 7. 第 2 回：演習リフレクション・グループワーク、発表、情報収集 8. 第 2 回：看護実践実践 (再演習) 9. 第 2 回：再演習リフレクション・グループワーク、発表 | | | |
| 第 7 回 ～10 回 | 10. 第 3 回：看護実践 (演習) 11. 第 3 回：演習リフレクション・グループワーク、発表、情報収集 12. 第 3 回：看護実践実践 (再演習) 13. 第 3 回：再演習リフレクション・グループワーク、発表、 | | | |
| 第 11 回 ～15 回 | 全体リフレクションの説明 14. 全体を通してのリフレクション① グループワーク：グループでの全演習の振り返り 15. 全体を通してのリフレクション② | | | |

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画 (Syllabus)

| | | |
|---------------------------------------|--|--|
| | <p>講義：本事例における4つのプロセスについて解説 自己の臨床判断における傾向及び課題の明確化</p> | |
| <p>自己学習 関連科目</p> | <p>知識だけでなく、原理原則に基づいた技術が実施できるよう各自タスクトレーニングを実施し臨む。 関連科目；専門基礎分野・健康障害援助論・成人・老年対象論・援助論</p> | |
| <p>テキスト</p> | <p>系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 医学書院</p> | |
| <p>参考図書</p> | <p>新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術 I メヂカルフレンド社</p> | |
| <p>評価方法</p> | <p>課題、グループ討議、演示内容</p> | |

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画 (Syllabus)

| 分野 | 授業科目名 | 単位数 | 時間数 | 開講時期 | |
|--------------|---|-----|-----|-----------|--|
| 専門 | 臨床看護の実践Ⅱ | 1 | 15 | 3年次 ・ 2学期 | |
| 担当講師 | 専任教員 (病院での看護経験あり) | | | | |
| 授業概要 | <p>患者の状況を把握し、患者の反応によって適切とみなされる支援を即興で行うには、多様かつ複雑な場、様相を捉え、対象の立場に立ち、柔軟に対応する能力が必要となる。また、その対応は対象の立場に立ち倫理に基づいた実践でなければならない。</p> <p>本科目では、臨床看護総論Ⅰの学びや各看護学実習における看護実践力をもとに、場面における看護実践を即興で行う。実践後のリフレクションにおいて、自身の傾向と課題を明確にする。対象の状況・反応に気づき適切に思考・判断し行動する力、看護師としての倫理的態度を備え対象の最善を考えた実践についてグループ討議を通して思考し、適切な看護実践のあり方を再現する。</p> | | | | |
| 授業目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 場面における看護実践から自己の傾向と課題を明確にできる。 2. グループ討議を通して臨床判断の思考過程を辿り、適切な看護実践が理解できる。 3. 対象の状況・反応に気づき適切に思考・判断し行動することができる。 4. 対象の立場に立ち倫理に基づいた実践ができる。 | | | | |
| 回数 | 授業内容 | | | 担当者 | |
| 第1回 | 1. 授業ガイダンス | | | | |
| 第2回 | 2. 場面における看護実践演習 | | | | |
| 第3回 | 3. 場面のリフレクション 自己の傾向と課題の明確化 | | | | |
| 第4～6回 | 4. グループ討議 <ul style="list-style-type: none"> ・ 場面のリフレクションの共有 ・ 臨床判断の思考過程を辿り、適切な看護実践を思考する ・ グループでの演示の準備 | | | | |
| 第7回 | 5. グループでの看護実践の演示とディスカッション | | | | |
| 第8回 | 6. まとめ | | | | |
| 自己学習 関連科目 | 内省により看護実践における自己の傾向を十分みつめ、自己の対策を立て臨む。 臨床看護総論、臨床看護の実践Ⅰ、看護の実践Ⅴ、総合実習 | | | | |
| テキスト | 系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 医学書院 | | | | |
| 参考図書 | 新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 | | | | |
| 評価方法 | 課題 グループ討議・演示内容 | | | | |

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画 (Syllabus)

| 分野 | 授業科目名 | 単位数 | 時間数 | 開講時期 |
|---------------|---|---------------|-----|-------------|
| 専門 | 看護の実践 I | 1 | 15 | 2 年次 ・ 2 学期 |
| 担当講師 | 専任教員 (DMAT 所属)、非常勤講師 (DMAT 所属) | | | |
| 授業概要 | 災害に関する認識を深め、災害看護の基礎的知識を理解する。その上で災害訓練の体験を通して医療チームのメンバーとしての役割、被災者への医療や看護について考える。 | | | |
| 授業目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害が人々の心身に及ぼす影響を理解する 2. 災害時に看護が果たす役割、災害時の看護支援活動について学習する 3. 災害時の救護活動に必要な技術を理解する | | | |
| 回数 | 授業内容 | 担当者 | | |
| 第 1 回 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害医療の概念 <ol style="list-style-type: none"> 1) 災害とは 2) 災害の種類と特徴：自然災害、人為的災害、特殊災害、複合災害 3) 災害時のマネジメント理論及び要救助者の考え方 4) 災害における医療と法：災害医療の特徴、CSCATTT、災害対策基本法 5) 情報の種類と活動（情報システムの変化） | 第 1 回 | | |
| 第 2 回 | <ol style="list-style-type: none"> 2. 災害医療における看護の役割 3. 災害各期の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 災害各期の特徴 | 第 2 回 ～4 回 | | |
| 第 3 回 | <ol style="list-style-type: none"> 2) 各期における保険医療の役割と看護 3) 各期におけるよう援助者への看護 4) 災害時の様々な対象への看護（高齢者、子どもとその家族、妊産褥婦） | | | |
| 第 4 回 | <ol style="list-style-type: none"> 4. 災害医療におけるこころのケア <ol style="list-style-type: none"> 1) ASD PTSD 被災者のこころのケア 2) 災害医療に携わる医療者自身のケア | | | |
| 第 5 回 | <ol style="list-style-type: none"> 5. 認定試験 | 第 5 回 | | |
| 第 6 回 ～8 回 | <ol style="list-style-type: none"> 6. 災害サイクルにおける超急性期の看護の実際 (災害訓練への参加、事前のオリエンテーション、課題、振り返り) | ～8 回 | | |
| 自己学習 関連科目 | 事前に学習内容に関して文献を用いて調べておく 関連科目：成人援助論、老年援助論、小児援助論、母性援助論、精神援助論 地域・在宅援助論 | | | |
| テキスト | 系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学 医学書院 | | | |
| 参考図書 | ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践③ 災害看護 メディカ出版 | | | |
| 評価方法 | 第 1 回・5～8 回：60%（筆記試験 20%、事前事後課題 40%）、第 2～4 回：筆記試験 40% | | | |
| 備考 | 災害訓練に必ず参加するものとする。 | | | |

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画 (Syllabus)

| 分野 | 授業科目名 | 単位数 | 時間数 | 開講時期 |
|--------------|--|-----|-----|------------|
| 専門 | 看護の実践Ⅲ | 1 | 15 | 3年次 ・ 1学期 |
| 担当講師 | 非常勤講師 (病院での医療安全管理者経験あり、感染管理認定看護師) | | | |
| 授業概要 | 医療安全と看護の理念から、取り組みと医療の質の評価を学ぶ。事故発生メカニズムと医療安全のマネジメント、安全文化の醸成、医療従事者の安全を脅かすリスクと対策を理解し、看護における医療事故と安全対策を学ぶ。 | | | |
| 授業目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療事故の概念および構造を理解することができる。 2. 人間の行動にあるヒューマンエラーの可能性およびそのエラーを最小にするためのシステムおよび方法が分かる。 3. 看護・医療事故の危険因子を総合的に判断し、予防・回避する取り組み方法がわかる。 4. 対象の権利を尊重し、安全を保障するための看護者としての責任と義務がわかる。 | | | |
| 回数 | 授業内容 | | | 担当者 |
| 第1回 ～2回 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療事故の種類と安全対策および看護師としての責務 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療・看護における医療安全とリスクマネジメントの動向 2) 看護における医療事故の中で多い事故の実態 3) 組織的な事故防止体制の重要性 4) 医療事故予防のためのアサーティブ能力 5) 看護における倫理的意思決定 2. 人間の行動特性とヒューマンエラーの概念 <ol style="list-style-type: none"> 1) 人間の認知機能のメカニズム 2) 人間の行動の不確実性 3) ヒューマンエラーの概念とメカニズム 4) エラーの要因 5) 自己モニタリングと自己コントロール 6) 事故を起こしやすい看護師の行動特性 3. 医療事故防止の考え方とその対策 <ol style="list-style-type: none"> 1) 危険に関する情報収集と危険因子の査定 2) 危険の予測 (危険予知トレーニング演習) 3) 危険を回避した看護実践とその評価 4) インシデントレポートの分析と活用 5) 事故事例による分析の手順 (要因分析の方法演習) 6) 医療事故と事故後の対応 | | | 第1回 ～6回 |
| 第3回 | | | | |
| 第4回 ～6回 | | | | |
| 第7回 | <ol style="list-style-type: none"> 4. 基本的な医療関連感染対策 <ol style="list-style-type: none"> 1) 感染管理とは (関連法律も含む) 2) 感染症発生時の感染拡大防止の実際 | | | 第7回 |
| 第8回 | <ol style="list-style-type: none"> 5. 認定試験 (45分) | | | 第8回 |
| 自己学習 関連科目 | 関連科目：老年看護学実習Ⅱ | | | |
| テキスト | ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全 メディカ出版 | | | |
| 評価方法 | 筆記試験 100% (第1～6回：85%、第7回：15%) | | | |

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画 (Syllabus)

| 分野 | 授業科目名 | 単位数 | 時間数 | 開講時期 |
|--------------|---|-----|-----|------|
| 統合 | 看護の実践Ⅳ | 1 | 30 | 3年次 |
| 担当講師 | 専任教員（病院での看護経験あり、看護に関する研究業績あり） | | | |
| 授業概要 | <p>看護学生としてケーススタディをまとめることの意義を念頭に、自己の実習での体験をケーススタディの論文として、系統的にまとめていく。また、自ら問題意識を持ったテーマについて、文献検索し、担当教員に計画的に指導を受け、論文・抄録を完成する。その後、全体場で発表し質疑応答を体験する。</p> <p>将来、ケーススタディ、看護研究を行うための基礎的な能力を養うことにつなげる。</p> | | | |
| 授業目標 | 看護の実践体験を系統的にまとめ、看護に対する考えを深める。 | | | |
| 回数 | 授業内容 | 担当者 | | |
| 第1回 | 1. 看護における研究の意味 | | | |
| 第2回 | 2. 研究の種類と特徴 | | | |
| 第3回 | 3. ケーススタディの概念・意義、研究のプロセス | | | |
| 第4回 | 4. テーマの設定 | | | |
| 第5回 | 5. 文献検討の実際 | | | |
| 第6回 | 6. 文献を活用した支援の検討 | | | |
| 第7回 | 7. 引用文献の使い方 | | | |
| 第8回 | 8. 研究計画書の作成 | | | |
| 第9回 | 9. 看護研究における倫理的配慮 | | | |
| 第10回 | 10. 論文のまとめ方 | | | |
| 第11回 | 11. 抄録のまとめ方 | | | |
| 第12回 | 12. 研究発表（原稿のまとめ方、発表方法） | | | |
| 第13回 | 13. ケーススタディ発表・評価 | | | |
| ～15回 | 認定試験 | | | |
| 自己学習 関連科目 | <ul style="list-style-type: none"> ・実習中に感じた疑問や課題を書きとめておく。 ・実習中に感じた疑問や課題に関する文献検索をしておくとい。 関連科目：各領域別実習 | | | |
| テキスト | わかりやすいケーススタディの進め方 照林社 | | | |
| 参考図書 | ケースを通してやさしく学ぶ看護理論 日総研 事例を通してやさしく学ぶ中範囲理論入門 日総研 看護理論家の業績と理論評価 医学書院 基礎看護学④ 看護研究 メディカ出版 | | | |
| 評価方法 | 筆記試験：20%、及び論文発表等：80% | | | |

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画 (Syllabus)

| 分野 | 授業科目名 | 単位数 | 時間数 | 開講時期 |
|------|--|-----|-----|-----------|
| 専門 | 看護の実践Ⅴ | 1 | 30 | 3年次 ・ 2学期 |
| 担当講師 | 専任教員 (病院での看護経験あり) | | | |
| 授業概要 | 看護職が対象者に責任をもってケアを提供するためには、必要なケアが効率的・効果的に提供されるようケアを調整、連携、評価する必要がある。看護の質を保証するためにその業務が職務として適切かどうか判断し、多重課題のなかでも日常業務が遂行できるマネジメントを学ぶ。 | | | |
| 授業目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 1人の対象者の情報収集・アセスメントにより対象理解をし、対象者の状態に応じた看護を考えることができる 2. 看護業務遂行のために1日の業務の組み立てができる 3. 1人ではできない業務の連携・調整、分担する場合、タイムマネジメントを行い、スケジュールの作成や優先順位の決定を行うことができる 4. 多重課題に対応するために、限られた時間や切迫した状況の中で、対象者の安全を配慮して、優先順位を判断し、行動することができる 5. 状況に応じて報告・連絡・相談を実施し、医療チームの一員として連携できる 6. 演習を通して、自己の特性や傾向、看護における課題を明確にできる | | | |
| 回数 | 授業内容 | 担当者 | | |
| 第1回 | 1. ガイダンス 看護学生の実習記録・診療報酬の取り扱いに関する注意事項と安全に実習を進めるためにとる行動 | | | |
| 第2回 | 2. 必要な情報を収集し対象者の状況に応じた看護を考える:SOAP 記録の確認 | | | |
| 第3回 | 3. 一人の患者の対象理解と安全、優先度、倫理的判断① | | | |
| 第4回 | 4. 一人の患者の対象理解と安全、優先度、倫理的判断② | | | |
| 第5回 | 5. 一人の患者の対象理解と安全、優先度、倫理的判断③ | | | |
| 第6回 | 6. 看護のマネジメント | | | |
| 第7回 | 7. タイムマネジメント、優先順位の決定と多重課題への対応 | | | |
| 第8回 | 8. 1日(24時間)の業務の組み立て方、報告 | | | |
| 第9回 | 9. 複数受け持ちにおける多重課題への対応① | | | |
| 第10回 | 10. 複数受け持ちにおける多重課題への対応②(演習) | | | |
| 第11回 | 11. 複数受け持ちにおける多重課題への対応③ | | | |
| 第12回 | 12. 多重課題の中で急性増悪した患者への対応① | | | |
| 第13回 | 13. 多重課題の中で急性増悪した患者への対応②(演習) | | | |
| 第14回 | 14. 多重課題の中で急性増悪した患者への対応③ | | | |
| 第15回 | 15. 筆記試験・まとめ | | | |
| 自己学習 | 演習前の事前学習 | | | |
| 関連科目 | 関連科目: 各領域別実習 総合実習 看護の実践Ⅱ | | | |
| テキスト | ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践①: 看護管理 メディカ出版 | | | |
| 評価方法 | 筆記試験: 40%、課題レポート等: 60% | | | |